

コロナ感染症から子どもと教育を守ろう！(14)

新型コロナ感染症に関する通知などの情報や、府高教のとりくみ、現場の声をお伝えします

子どもの学びに立脚した学校教育を 大阪教職員組合が定期大会を開催

大阪教職員組合（大教組）は5月30日、たかつガーデンで第200回定期大会を開催、政治の転換や憲法と教育、暮らしを守るなど、今年度の運動方針や当面の闘争方針、重点課題を決めました。藤川真人大教組委員長は開会あいさつで「子どもたちはこの3ヶ月間を、大人以上にしっかり学んでいる」と述べ、子どもたちが手作りマスクを保育園に届けるなどの事例を紹介し、「学校再開に当たり、大変だったことやワクワクしたことなど、子どもたちの学びを共有することから始めていきたい」と呼びかけました。



代議員の発言では「学校再開」を目前に、実態の告発、困難な中でも子どもの最善のために努力する教職員の実践などが相次ぎました。

府高教の代議員は、分散登校日に屋外で「青空図書館」に取り組んだ実践や、「9月入学」で署名活動を始めた高校生たちが『教育の主体は自分たちにある。そ

して教育の機会は平等であるべき』という、当たり前のことを私たちに突きつけた」と発言しました。

養護教員は学校再開に当たり、新型コロナウイルスの感染を防止するために必要な物品や人の配置を求める運動を報告しました。

小学校教員は「標準授業日数を確保することが必ずしも学習権を保障することにならない」、「目の前の子どもを丁寧にみて編み直す。教育課程は『生き物』だ。常に柔軟でなければならない」と発言しました。また「9月入学をグローバルスタンダードというのなら、学級人数や学校負担など教育環境こそグローバルスタンダードに合わすべきだ」と指摘しました。

大阪市の学校現場からは、入学式の中止を松井一郎市長が教育委員会の指示を無視して指示し、学校の門前で中止を知った親もいたなど、親と子を混乱させたことを告発しました、さらに地域住民が反対する小学校統廃合が強行され、ある町会では役員全員が陳情署名を行ったなど運動の広がりを報告しました。

大会では、「国家に都合のいい『人材』の育成や、学習指導要領の完遂に執着する政権に対して、教育の専門職とする教職員として立ち向かい、改めて学校の存在について問い直す中で子どもたちの学びに立脚した学校教育を取り戻そう」とする特別決議を採択しました。



新型コロナ対策について
ご意見をお寄せください
osfuko@yahoo.co.jp



▲加入はコチラ

府高教 第91回定期大会

6月20日(土) 13:30開会
エルおおさか・南ホール

※12:30~受付 保育はありません

[NEWSはコチラ] <http://www.fukokyo.org/topics/1722>

だからみんなで！あなたも府高教へ！

#学校再開は条件整備とセットで！ #少人数クラスでゆとりある教室を #えがお署名